

東海職業能力開発大学校附属
浜松職業能力開発短期大学校長

久保 靖



“人”の問題

“モノづくり”は“ヒトづくり”だというので、人にかかわることを書かせていただく。

フリーターという言葉が出現したのは1987年のことというが、パートで働く18歳から34歳までの学生でない人々を指し、1997年には150万人を超えて平成12年版労働白書に大きく取り上げられるようになった。最近の年間出生数が120万人に達しないことを考えれば、事の重大性は察せられよう。私の甥にも30歳にもなってパラサイトシングルを続けている者がいる。せっかく伯父さんがこういう仕事をしているのに近寄っても来ず、学生のときに勉強した売れ口のない専門から一歩も出ようとしな。口が重くて何を考えているのかよくわからないのだが、去年11月に放映されたNHKの“日本の宿題”という番組に出演したフリーターたちは、きわめて能弁に自らの立場を語ってくれた。

ミュージシャンになりたいのだという者が多かったので、やりたい道を進みたいという“夢追求型”に属する者たちであろう。フリーターにはこのほかに、就職口がないのでという“やむを得ず型”と、やりたいことがわからないという“モラトリアム型”があり、後のものほど新しく多数派を占める。会社人間の親たちのような生き方はごめん、自由を失くして正社員になる気はないというのが、フリーターたちの4割余りの者が持っている心情である。ゲスト出演した若手ミュージシャンが「この道で成功する確率は針の頭ほどもない。将来、夢破れ症候群のフリーターの成れの果てが世にあふれるだろう」と衝撃的なコメントをしたが、彼らは動揺を見せなかった。さらに、34歳で正社員になったとしても初めから正社員で勤めた者と比べた逸失賃金は45歳時点で6000万円を超える、これが自由の値段だ、という試算も示された。東京で新築マンションを購入できる金額であるが、これを聞いてもおそらく彼らはたじろがなかっただろう。

政府は新年度予算でフリーターに対する就職支援対策として5億2000万円を計上し、カウンセリング

や就職紹介を行うとのことであるが、番組に出演していた若者たちの顔を思い浮かべると「就職支援だのキャリア形成だの大きなお世話だ、ほっといてくれ」という声が聞こえてきそうな気がする。彼らが頼もしいのか危なっかしいのか判断がつかねるが「後生畏るべし」の言が真なることを願わずにはおられない。

次に、いわばフラフラしている“やむを得ず型”と“モラトリアム型”のフリーターたちであるが、昨春の高校卒業生の約1割がフリーターになったという現実を前にして、文部科学省も専門家会議を設け対策を急いでいる。彼らにものづくりの方に顔を向けてもらいたいものであるが、若者たちの憧れの対象となるものは一体何なのだろう。「ものづくり懇談会」の座長を務めた唐津一氏は「サッカー選手の移籍がトップ記事になるのに、技能オリンピックの金メダル受賞者は新聞にも載らぬ。総理大臣賞を設け、表彰式には皇太子ご夫妻のご臨席を仰ぎたい」と主張されていた。私はうちの短大生に、宇宙飛行士の若田光一さんは実践技術者の鑑だ、ああいうふうになりたくはないかねと尋ねたところ、「僕たちにとっては遠い雲の上の存在だ」と答えたので、座布団を二枚あげたくなった。テレビに出る料理の達人の方がまだ身近で、自分もなれそうに感ずると言う。毎年労働省から発表されてきた「現代の名工」は年寄りばかり(昨年度の平均年齢は64歳で私と同年)で、若者の憧れの対象とはなりそうもない。将棋の世界と同じように、技能の分野でも年齢にかかわらず名人の称号を授与し相当の処遇も伴わせて、颯爽と格好良い存在とすることができればよいのだが。

くほ やすし
略歴 1960年 東京大学工学部応用化学科卒業
1962年 東京大学工学部助手
1969年 東京大学生産技術研究所講師
1972年 静岡大学工学部助教授
1986年 静岡大学工学部教授
2000年 現職